

阿嘉の特攻艇秘匿壕

これは阿嘉島で特攻艇を隠していた2つの壕のうちの1つです。もう2つが慶留間島にありました。この特定の壕にあった船は、第2海上急襲艦隊のものでした。レールを備え、船5艇分の収容能力を持った壕は、島の住民と朝鮮人労働者の建設隊によって掘削されました。

特攻艇はベニヤ製で、自動車用エンジンを搭載していました。重量は1,200kg、長さ5.6m、幅1.8mで、操縦士が単身で操船するように設計されていました。操縦士の任務は、120kgの水中爆雷2つを可能な限り米国海軍艦艇の近くでぶつかることです。特攻艇は、連絡船の頭文字であるレを書いてそれを丸（○）で囲ったことから「マルレ」と呼ばれていました。

日本軍は、フィリピンの戦いで効果を発揮したこの「秘密兵器」に大きな期待を寄せていました。そのため阿嘉島と慶留間の壕に100、座間味島の壕にさらに100の特攻艇が隠されていました。ですがその希望は叶うことなく、それらが「1艇も出撃しないうちに空襲あるいは自軍による攻撃で破壊された」と現代の日本の記録に記されています。特攻艇の上に壕が崩れ落ちたり、使用できなくなるほどの直接攻撃を受けたりした場合もありました。他の場合には、船の出撃基地が破壊されたこともありました。